

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)三交イン京都八条口新築工事■使用評価マニュ: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
欄に数値またはコメントを記入
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目							評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											2.7
Q1 室内環境								0.40		-	3.0
1 音環境							3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル							3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音							3.0	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能							3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音							3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境							3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御							3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温							3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能							3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ヨーン別制御性							3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御							3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式							3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境							2.6	0.25	3.3	1.00	2.9
3.1 昼光利用							1.8	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)	昼光率 専有部7.1%				1.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口	●自然	B(推奨内容)					3.0	0.40	3.0	0.40	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)					3.0	0.30	3.0	0.30	
3.2 グレア対策							3.0	1.00	3.0	1.00	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)					3.0	0.15	3.0	0.15	
3.3 照度							3.0	0.25	3.0	0.25	
3.4 照明制御											
4 空気質環境							3.0	0.25	3.2	1.00	3.1
4.1 発生源対策							3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質							3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気							3.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量	●自然	A(全国版準用)	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							3.0	0.50	-	5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮							3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視							3.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-	2.7
1 機能性							2.4	0.40	3.2	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性							-	-	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応							-	5.0	-	5.0	
3 パリアフリー計画	●大切	D(独自基準)	光配線				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)	●とも	C(独自加点)					-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース							-	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)					1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理							3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計							3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保							3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能							3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.4	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1 空調・換気設備			2.4	0.20	-	-			
	2 給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	-			
	3 電気設備			3.0	0.20	-	-			
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-			
	5 通信・情報設備			2.0	0.20	-	-			
				3.0	0.30	2.0	1.00	2.5		
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり			-	-	1.0	0.50			
	1 階高のゆとり			-	-	1.0	0.60			
	2 空間の形状・自由さ			-	-	1.0	0.40			
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.50					
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-			
	1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-			
	2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-			
	3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-			
	4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-			
	5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-			
	6 パックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4		
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4		
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7		
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.87	4.3	0.20	-	4.3		
2 自然エネルギー利用				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.10	-	3.0		
3 設備システムの高効率化				●自然 C(独自加点) [BEI][BEIm] = 0.75	4.0	0.50	-	4.0		
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0		
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-			
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-			
集合住宅の評価					-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	3.2		
1 水資源保護					3.4	0.20	-	3.4		
1.1 節水					4.0	0.40	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.60	-			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-			
2 雜排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-			
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60	-	3.3		
2.1 材料使用量の削減				●大切 B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.10	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				●大切 B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				●大切 A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				●自然 B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				●大切 A(全国版準用)	5.0	0.20	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	3.0	0.20	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-			
1 消火剤					3.0	0.50	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-			
3 冷媒					3.0	0.50	-			
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	3.1		
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO ₂ 排出率 =78%	3.8	0.33	-	3.8		
2 地域環境への配慮					2.3	0.33	-	2.3		
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				●とも A(全国版準用)	2.0	0.50	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25	-			
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-			
3 交通負荷抑制					1.0	0.25	-			
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	3.2		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-			
1 騒音					3.0	0.33	-			
2 振動					3.0	0.33	-			
3 悪臭					3.0	0.33	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-			
1 風害の抑制					3.0	0.70	-			
2 砂塵の抑制					3.0	0.30	-			
3 日照阻害の抑制					4.4	0.20	-			
3.3 光害の抑制					5.0	0.70	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうらに漏れる光への対策				●とも B(推奨内容)	3.0	0.30	-			
2 曙光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					4.4	0.20	-			

記号凡例 ●:重点项目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」:自然からつく